トクン
トクン
……私は……私の……名前は……
トクン
トクン
トクン
トクン
トクン
トクン
……さ……ん……か……れ……あ……
じゃあ…
あなたは……

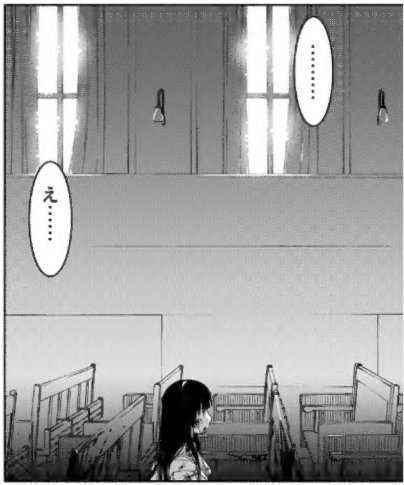
降谷……千紘…君
ぷっ
くいっ
ひょっとしたら
オレの血
吸ってもさ
もう思い出して
くれないのかと
思ったよ……
ポロ
ポロ

ムチャぶりしてよかった
アンサーを　まっていた　ひと…
あ……
ポロ
ポロ
ポロ
ポロ
私……
私……

お前のこと…
好きだったんだ……
私……も……
降谷君のこと……
初めて……会った……時から……
ずっと……ずっと……

好きでした…

降谷……君？


……
え……

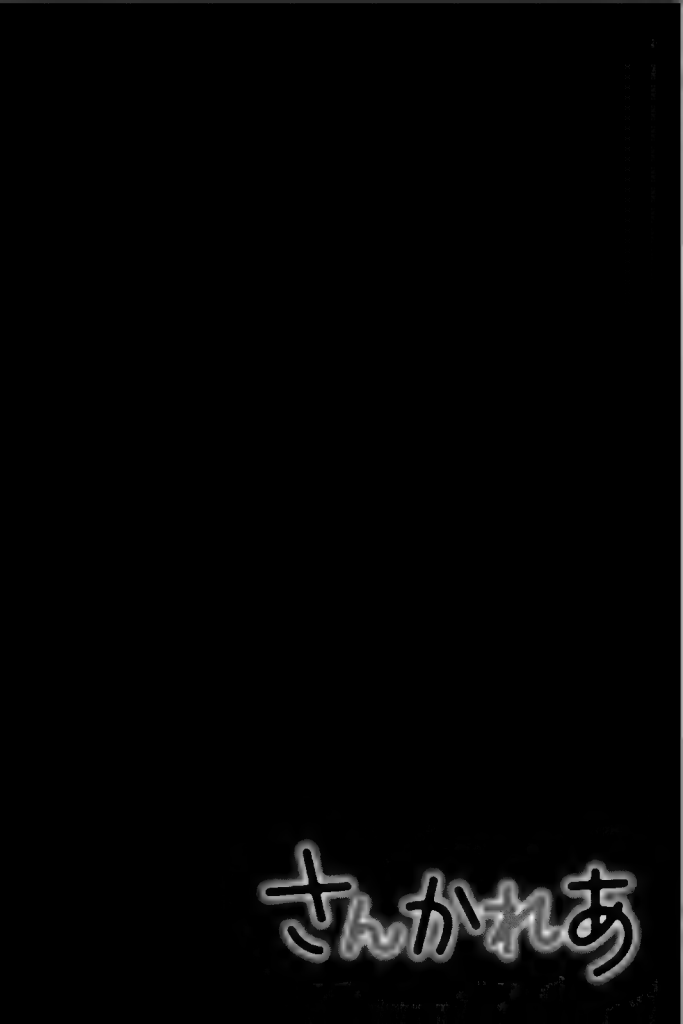
どこ…
降谷君……？
ねぇ……
聞いてくれた
……？
私からの
アンサー……
あ……

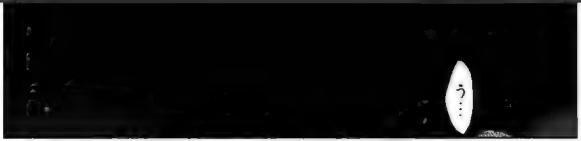
この…手ざわり……
そんな……
匂い……
まさか……
味……
私……

あれから……
降谷…君を……
全部……
食べちゃったんだ
……

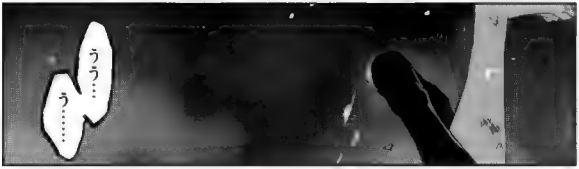
もし、日経っても
オレらが出てこなかったら
礼弥のことは…頼む
やり方は
ダリンが
知ってるから……

……え？
ちょっ…
ボウヤ一人で
入る気!?
ガッ
何…？
やり方って…!?
ガッ
ガッ
散


さんかれあ



ゾンビに……とっての……幸せ…



それは……

一番……愛する…モノを……

う…
たっ
う…う
う…う…
んばー…
ぺちゃ
す…
……ん
ぐぐぐ…

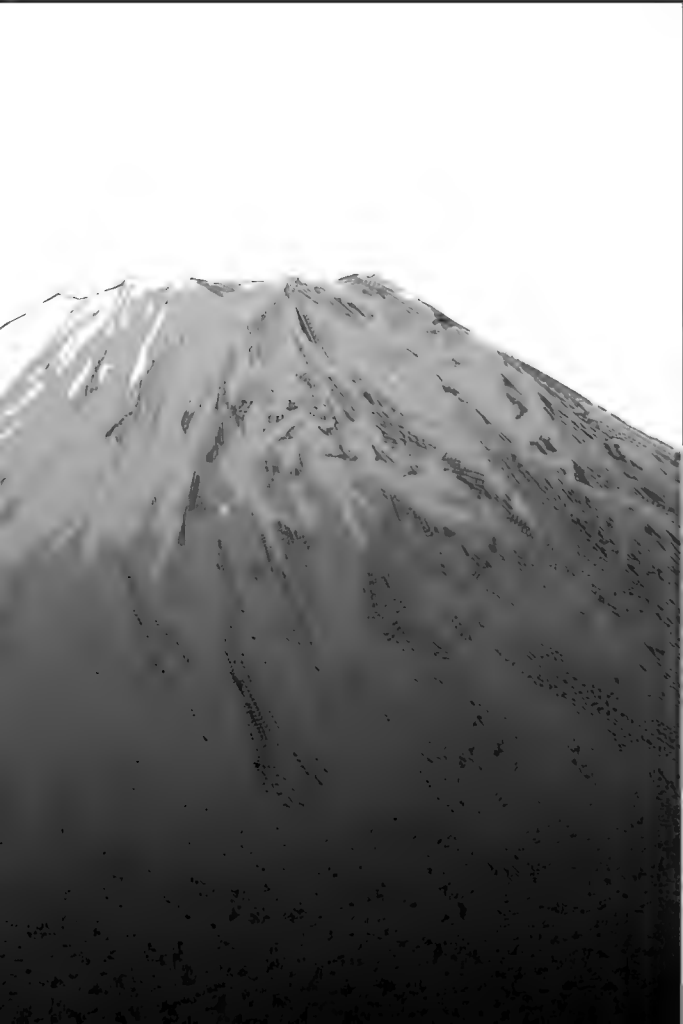
私……
まだ…ギリギリ
忘れて
なかったよ……
ばーぶ…ちゃん
頭の奥に
残っていた…
私の記憶を……
想い出を……
ごろ
ごろ
ばぶ
ばぶ
降谷君が
蘇らせて
くれたの……
…そう

私は……
夢うつつのうちに……
気がつけば――

コレダ…
コレダ…
コレダァ…
コレダ…

きっと……
それによって
私の〝心〟は
取り戻されたの
……
でも……
でも…こんな
ことって……
意味……
ないよ……

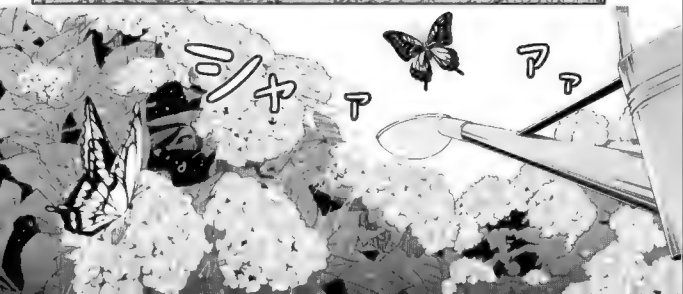
降谷君が
いなくなったら
……
なんにも……
意味……ないよ……
う……
……



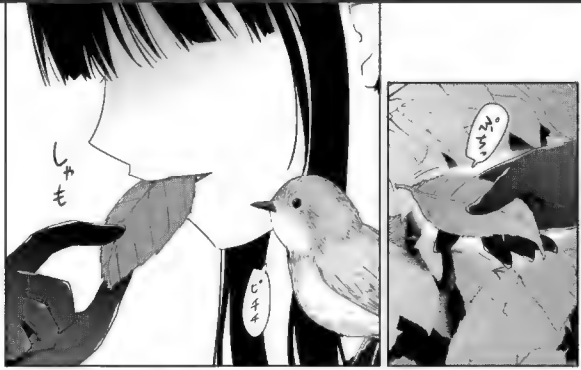
——それから

それって…まさか――
ギィ
イ
イ
イ
待って…っ
チヒロっ！
チヒロ――
バタ…ン

ザ"
ザ"
ザ"
ザ"


ニャ
ァ
ァ

チチチ…
チチ…


しゃも
ぴぃぴぃ
ぷちっ

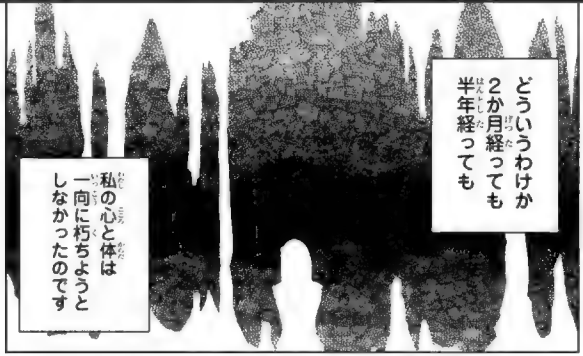
ぱたた
いい庭じゃない
ふぅん

久しぶりね
……
礼弥サン
あの後……

私は皆からの
説得を振り切り
かつて訪れた
あの氷穴で暮らすことを
選びました
降谷君をついに
食べてしまった私は…もう
ヒトと同じ世界には
住んではいけないと
悟ったからです……
だからここで
――二人の
想い出の地で――
感謝と…償いを胸に
あと残り少ない
私の人生を
全うしようと……
ところが……

どういうわけか
2か月経っても
半年経っても

私の心と体は
一向に朽ちようと
しなかったのです



そのうち私は
氷穴を離れ
周辺の樹海を
徘徊するようになり

その時に見つけた
廃別荘地に
居着くように
なりました

ただダリンちゃんとは
それからも
手紙で連絡だけは
取り合っていて

時々 気を遣ってか
お洋服や小物の
差し入れを
送ってくれるように
なりました

そして……
一番新しい手紙には
こう書かれて
いました

〝来週
迎えにいくから
一周忌くらいは
顔を出しなさい〟
――と

ばーぶ
……あの猫…
はい…
町を出て
2か月後に
でも
とっても
穏やかだったんです

理性もそのままで暴れることもなく……
まるで自然に溶け込んでいくように
土に還っていきました
……それはきっとアナタのおかげね

アナタの体から作られた薬を投与したことで
ばーぶ
ばーぶは〝ゾンビの苦痛〟から解放されたのよ

でも……それらを免れたとしてもやはりゾンビの寿命は2～3か月なことに変わりはない……
……なのに

……本当に
さぁ
私も
不思議です
……
もう すっかり
ダリンちゃんに
背の高さを
抜かれちゃい
ましたね
ぴっ
まぁ…ゾンビは
成長しない
からね……
行きましょ
氷室さんも
わざわざ
ありがとうございます
あ…いえいえ
お迎えに行くと
聞いて 折角
でしたので……
アナタは
まだここに
存在している――
……ねぇ
礼弥さん
記憶転移
って聞いたこと
ある？

臓器移植
特に心臓――
を受けた人に
臓器提供者の
生前の〝記憶〟までもが
移るという現象――

記憶が移る……？
正直 その話自体
科学的根拠の無い
話ではあるんだけど
……

アナタは彼の
生きたままの
心臓を
真っ先に
食べた――

きゅ
ううん…
信じなきゃ……
きっとチヒロは
無事に……戻ってくるって

仮説だけど……
それによって
彼の
〝記憶〟を栄養に
したことで……
新種であるアナタは
心身を効率よく
維持できているんじゃ
ないかって
「その人との
これまでの〝想い出〟を
独り占めしたかった
のかもしれないべ……」

……
そうかも
しれませんね…

さ…
もうすぐ着くわ
紫西寺
……

もう1年ですか……

あんなに元気だったのに…
本当に残念でしたよね……

残念ね仕出し食べられなくて
紫陽花の葉持ってくる？
いえ…こんな人のいる前じゃ変に思われるから……
ふう

ちょっとだけ休憩しよっかな…
ごめんねずーっとドタバタしてて
いえ…
礼弥ちゃん全然変わってないね

わんこさんも
1年前と全く
変わってませんね
1年だけ
取ったよ
まー
でもさ
どうなんだろ？
はぁ～
アイツがもし
ここに居たら
今の礼弥ちゃんの
小さな変化も
見つけちゃうのかな
ゾンビマニアの
彼なら見つけ
そうね
……
きゅ…
…じゃあ私
この辺で
そろそろ……
えっ
あっあ…ちょっと！
礼弥ちゃん!!
待ってよ……！
折角なんだから
もう少し……
ね

悪い
超遅れちまった…

ふぇ……っ!?
降谷……くん……!?
なっ…
れっ…れれれ礼弥……!?
おい!?
え…
ますは二人でゆーっくり
再会を楽しみなっ
す…

ぱ
たむ…
……まったく
わんこの奴…
じーちゃんの
一周忌に合わせて
き
ゃ♡
オレと礼弥を
内緒で鉢合わせ
させようと最初から
仕組んでやがったな…
……
ア…

……

……元気そうだな
……降谷君こそ
その……お体
大丈夫なんですか…？

ん…ああ 大丈夫 大丈夫
移植手術も終わって久々の遠出で少し疲れはあるけど
やっぱ人工心臓より全っ然いいわー
それもこれも全て…
あっ ホラいるいる

なぁ……
ここで…
少し……
ゆっくり
していっても
いいかな……

海外への
渡航・滞在費から
手術代まで
おっさんが
全て持ってくれた
おかげだわな

今日もわざわざ
空港まで迎えに来て
くれたしさ
フーか 妹の二人が
ヨリ戻したのが
一番びっくり
だけど……

あの時…
オレ
礼弥に全部
食べられるの
覚悟したけど
……
心臓
食べられた所で
皆に運び
出されたんだよ

……はい 後で聞きました……
私……てっきり全部食べてしまったんだとばかり……
でもさ 自分でもビックリだけど
心臓食われて大量出血してもなお
オレ……
フツーに意識があったんだ
ダリンに理由聞いたらおそらくじーちゃんと同じで
これまで礼弥から何度も致死量未満のゾンビ毒を受けていた影響で
〝死に対して鈍い体〟になってたんじゃないかって……

その結果
オレの命を救うことに
なったんだから
つくづく不思議だよな
なんか オレも
もうバケモノに
なってたんだなー
…って
ア…
…だから

オレの心臓
食べちまったこと
なんてさ
全然
気にしなくて
いいんだぜ
あれから ずっと
樹海辺りで暮らしてるって
聞いたけど……
戻って来ても別に…
……

……私 樹海暮らし
実は結構
気に入っているんです
なんていうか…
初めて一人暮らしを
し始めたみたいな……
ステキな
お庭を作ったり
野鳥さん達と
仲良くなったり
とっても人生を
エンジョイしてるから
まだ平気ですっ

……ぷっ
やっぱ
お前らしいな
死んでんのに
イキイキしてて
心配して
損したぜ
……
ただ

ばーぶちゃんが
先にいなく
なっちゃったのは
寂しいかな……
……
そうだな……
ばーぶの
おかげで
オレ達
出会えたん
だもんな……

——そういや
えーっと…
ごほん…
礼弥はあの時のこと……どこまで憶えてる？
え？
オレ……食われながら……
お前に呼びかけた〝言葉〟があったんだけど……
トクン

トクン

って……
憶えてねーよな
ははは……
……
じゃ……
いいや……

私も……
降谷君に対して……
あります

一つ……
伝えなきゃいけない
〝言葉〟……
……！
それは……
トゥン
トゥン
トゥン
トゥン
トゥン
トゥン
トゥン
トゥン

ごちそう
さまでしたっ

この先……

ずっと……

どこまでも……

朽ち果てるまで——

The end

……ええ
別に……
構いませんよ……
危険な賭けだと
いうのは
ふ……
ふふ……
ふふ……ふ
わかっている…
あ…は

あとがき的な

最終11巻までお付き合い下さいまして
誠にありがとうございます。
自分が当初予定していたよりも
かなり長期連載になってしまいましたが
なんとか無事終了することが出来ました。

これまで描いてきた連載漫画の中では
かなりダーク寄りな内容だったのですが
鬱エンドへは持っていかず、かといって
ハッピーすぎないバランスで締めてみました。

礼弥と千紘がいつまで一緒でいられたのか…
それは、ご想像にお任せします。

重ね重ね、ご愛読ありがとうございました。

ちなみに次ページより
番外編が収録されていますが
これは本編の設定を借りた、ある意味
パラレルワールド的なお遊びで描いています。
あまり深く考えずにお楽しみ下さいませ。

それでは、また新作でお会いしましょう。

はっとりみつる

これは
とある土地で
とある二人が
体験した
しろまびと
～さんかれあif～
不思議な
物語です
はっとりみつる

おーい
待てよタマ！
オマエ進むの
早ぇーんだよ！
ったく…
ライ姉が
遅いんだって
ばよ!!
あーあ
ばぁばに
言われなきゃ
お守りなんて
しねーのによォ
はさ

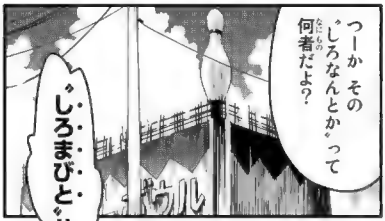
おった
この先だってば!!
ぶぁーか
おぴゃおおおおお
……
おい…タマ?
え…ちょっと
返事しろよ…!!

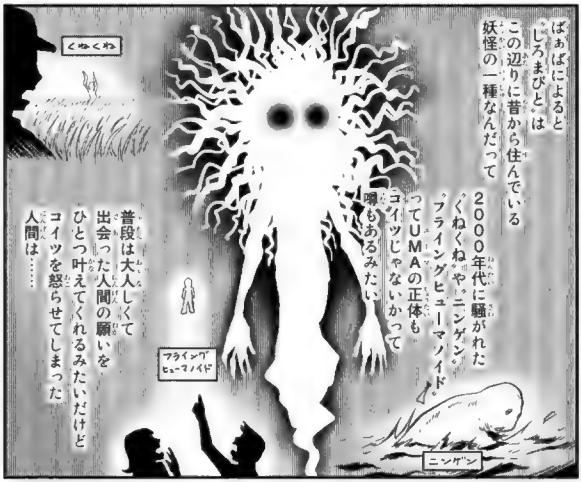
ガバッ
ち○ちーん！
ジッポ
あぢゃぢゃぢゃ
ぴぃくん
なんでこう
ち○ちんの
付いてる生き物は
ムカツくん
だろーなぁ
ち○ちん
ぎゃくたーい

じ――く
……でさー
じ――

その目的のトンネルはまだなのかよォー
もーくたくたぜ
志場町
Shiryuchi

ん！…
昨日 ばぁばから聞いた話だとこの辺りって…
1時間くらい歩いてるぜ？


つーか その〝しろなんとか〟って何者だよ？
〝しろまびと〟!!


ばぁばによると
しろまびとは
この辺りに昔から住んでいる
妖怪の一種なんだって
2000年代に騒がれた
「くねくねやニンゲン」
「フライングヒューマノイド」
ってUMAの正体も
コイツじゃないかって
噂もあるみたい
普段は大人しくて
出会った人間の願いを
ひとつ叶えてくれるみたいだけど
コイツを怒らせてしまった
人間は……
くねくね
フライングヒューマノイド
ニンゲン

「心臓を
食べられて
しまうの
ですぞ～～～」
ミシャアアア
…つーか
ってばぁばの言葉聞けよ！
ガク
ガクガク

あれじゃね？
じーっ
じー
トンネル
ど
お
ん
へぇ〜〜〜
結構ムード
あるじゃん!!
……
ピチャ
ピチャ

で…どこまで入りゃいいんだ？
ボォ…
えと…カベに大きなシミがあるところまで……
つっても暗くて何も見えねーぜ？
ゴッ
！
あう
痛ェ…
って…

ああああ
……
なんだ
カベの
シミかよ…
あじゃあ
ここが目的地か？
よ…よーし
じゃあちょっと
待ってね
ギ・シ・キの準備
するから……
痛って…
ヒザ擦りむいち
まったぜ
ぱさ
どうして
アジサイなんて
必要なんだ？
なんか新鮮な
アジサイの匂いで
ヤツをおびき
寄せられるん
だって…
ぱさ
はぁー
なんだそりゃ？

でも――

ちゅっ

……!?
今 ヒザに 何か触れたような……
って

あれ? キズが痛くねぇ……
?
?
ペちペち
フー
よっし 準備完了

ラッ ララライ姉 もう引き返せないぞ ……いいな!?
やるぞ!? やるぞ……!?
早くしろよ……

「しろまびと様 しろまびと様
いらっしゃいましたら 私たちのそばにおいでくださいませ

そばにこられましたら 私たちが持っている
アジサイを お習りくださいませ」

え？
アジサイの葉
習るの？ 毒とか
なかったっけ？
ヤツに毒は
通用しないんだ

この儀式やって
ソイツに会ったことの
ある奴って どのくらい
いるんだ？
……まだ誰も
見たことないって
はァ――――？
じゃあ心臓云々の
話とかウソじゃん！
会わなくても
食べる能力を
持ってるんだってば

じ

もうやってらんね…
すー
あー
ギシキ中に
手つ手つ
放しちゃ
だめだってばよ
おおお!!
あわわ
！
あっれえ
「あれ」じゃ
なくって
早く手を
繋いで!!
いや…つーか
お
お
お
お
先っぽ…
齧られてね……？

お
お
お

わぁ～れぇ～をよびさまぁ～～すものはあああああ～～～

あああ

わあああああ

な～～～んじら～
よおおお～～～
わ～れえに～～～
なんの～～～～
ようだあぁ～～～～

う……あえと……っ
この…珠人って
奴のお守りで
……つまり
ヒマ潰し…で……
違うっ!!
あの…ボク……
ね……願いをきいて
もらいたくて……っ!!
あまぎまま

ほぉ～
れ～がぁ～～
いぃぃ～～～？
なんじゃ～～～
いってぇ
みよぉぉぉ～～～
はいっっっっっっ!!
ボク「ゾンビーウォッチ」の
プレミアムメダルが
全部欲しいですっっっっっっ!!
え？ あ？
えっと…
オレは……
その…
同じクラスの持田君と
親しくなれたら
なぁ……って……
あぜっ
ズゴー
……
よぉかぁ
ろぉぉ～
かなえてぇ
しんぜぇ
よぉぉぉぉ
～～～～

ただあしいい
どちらかああ
いっぽうのおおお～～～
ゴゴゴ
からだのおおお
いちぶをぉ
くわせろおおおおお
ゴゴゴ
ゴゴゴ
ゴゴゴ

はぁやぁくぅぅ
しぃいろぉぉ〜〜
…じゃあ
珠人のち○ちんで!!
すぽ
えぇ〜〜〜

きゃあああああ

はらり
……
はらり
え……

よ…よく
わかんないけど
今のうちに…！
こうして二人は
命からがら
〝しろまびと〟の棲む
トンネルから
脱出しましたとさ

何してんだよ！
早くっ!!
た
た
た
……おう

言いそびれたけど
新鮮なアジサイをありがとう

おばあさんにもよろしくね
おわり

～おまけギャラリー～
※連載1ヶ月前に雑誌に載った予告カット

※別マガ企画で描いた暑中見舞カット

「神のみぞ」

「マガジンSPECIAL」2014年No.1掲載

※以前マガジンSpecialに描いた4コマ

バイバイ。

ガ
ドゴォ
ば
……

見境なく 誰でも
襲うようになった
礼弥に……
はは…
ドン
ドン
あは…
バクン
バクン
バクン
バクン
バクン
バクン
は……
ふふ……
本当に食べたいモノを
思い出させるには
……
……さぁ
齧れ……!!

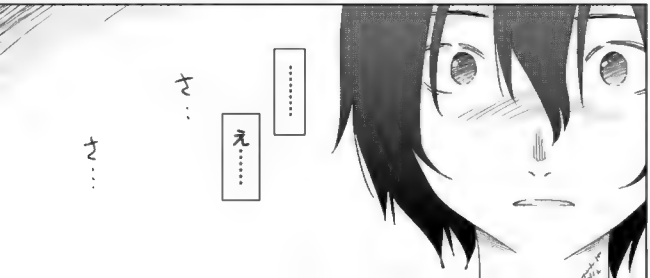
バクン
あの時のように……
齧りついて……
オレを……
バクン
オレの味を
思い出せ……ッ!!!
バクン
バクン
前に……
言っただろ……!?
お前は
バクン
礼弥は……
心の中
バクン
オレが作った
ゾンビなんだ……ッ!!
……ん……

さんかれあ
11
はっとりみつる
SHONEN MAGAZINE COMICS

ちがう…

す…

さっ
さ…


……
さ…
え……
さ…

ちが……う……？
カ
カ
あ……
パラパラ…

あはー…
ツバメ…さん……
そんな所に…巣があったんですね……
ふふ…
ふふふ…
ふふふ…
……そっか……
たんっ
あはっ
もう……
礼弥の中に……
ピィ
チィ
ギィ
ピィ
チィ
ギィ

オレは
いないんだ

ア ア ア ア ア
紫陽町役場より――
お知らせ――
致します――
ア ア ア
ただいま町内は――
局地的な大雨に
より――
ド ド ド ド
大雨洪水警報が――
発令されています――

川の水位が――
上昇しており――
大変危険ですので――
住民の皆様は――
川沿いには――
近付かないで
下さい――
繰り返し――
ザァ
ア
ア
ア

ア
ア
……
ア
ア
ア
ア
ア
ばふ…
BA~Bu
ぺシ。

ア
ア
ア
ア
ザァァ
ア
ア
ガサッ
もうディナーは
済ませたわけ？
ア
ア

アナタ
……
ありがと
でもいらない
そう…
ばさ
…で
中の方はもう済ませたのかしら?
どかっ

ザ
……
…半日も
そのままでしょ？
まだ
未確認なわけ？
すん
…じゃあ
私が見てきて
あげよっか？
ダメっ!!
ガさ
…チヒロとの
約束だから……
明日の……
朝までは……

ホンッと
非効率で
ガンコよね……
アナタも
チヒロも…
……
……
いいわ

私も朝まで
付き合って
あげるわ
ア
ア
ア
ア
ただし
もし朝になっても
彼が……
わかってる

ねえ！
いつまで
待たせるのよ！
ア
ア
ア
夕方に頼んで
おいたでしょ！
着替え!!!
ア
ア
ア
も…申し訳
ございません

…ええ！
わかってるわよ!!
私だって
さっさと屋敷に
帰りたいわよっ!!
でもね！これでも
私はアノ人の学校を
守る理事なのよっ!!
アナタと違って
重〜〜い責任ってね
もんがあるのよッ!!
はい…
はい…

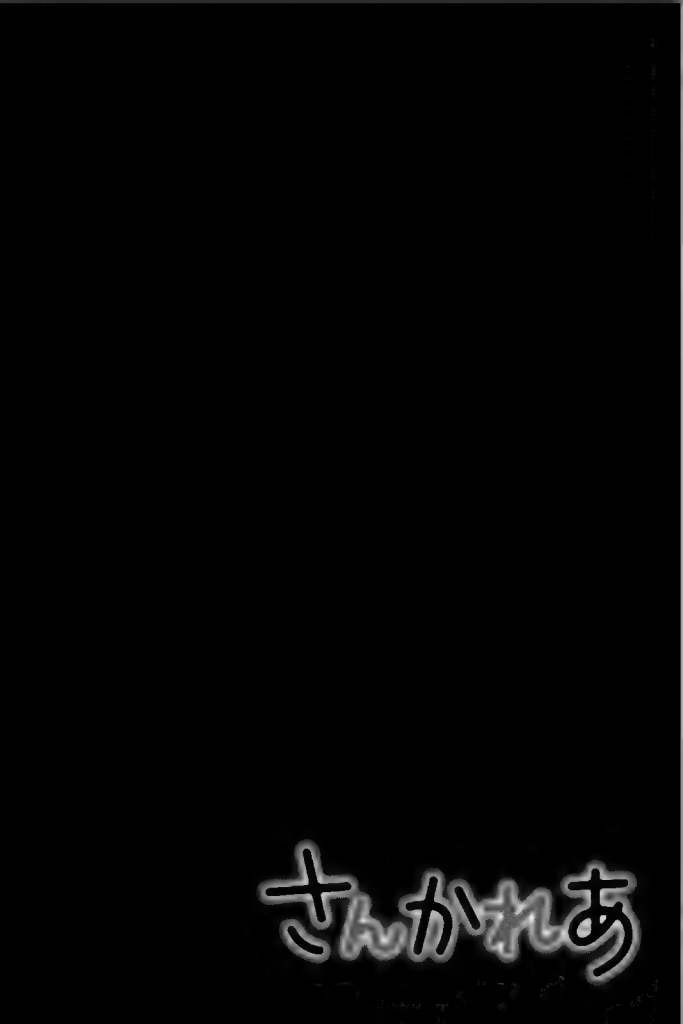
あ…あの…
亞里亞様
実はですね……
先ほど お屋敷にて
一大事がございまして
……
ハァ!?
言い訳は
聞きたくないわ!!

私の
着替え以上の
一大事なんて
何も無いわよ!!!
もう 服がベトついて
気持ち悪いのよっ

ガ
まったく…
ギッ
一応 ボウヤを
立ててやって
一晩だけは
そのままにして
あげるけど
もし明日の
始業時になっても
講堂を占拠してる
ようなら……
学校はおろか
町にも住めないように
してやるわ……!!
その必要は
ない
ピッ
な…誰!?
つーか勝手に
私の部屋に
入ってくる
なん…て……

え…あ…
どうして……。
なぜなら
私(わたし)が……
ザッ
ザッ

ザ…
二人を
看取るのだから


さんかれあ

第54話 また…今から…

RISE OF THE ZOMBIES

さんかれあ

11

はっとりみつる

だ…
団一郎さん……!?
どうして…
ここに……!?
それに…今……
なんて……
ドド
ドド
ドド

ぱた
ぱた
じた
ぱた
ひっ！
す！
ちょ…
その猫は……ッ
ここへ来る途中に
川辺の様子を
見にいった際
拾ったのだ
ホラ
好きな所へ
行くがよい
おそらく…
主が気掛かりで
ここまで駆けつけようと
したのであろう
ずり
ずり
あ…あなた
猫を素手で触ったら
アレルギーが……
この程度の
こと……
今は
どうでもよい
屋敷の者達から
今の事情は聞いた
……

…いつお戻りになられていたのですか？
数時間前だ

……戻られたということは
ひょっとしてあの子を救う方法が見つかりまして…？
それとも看取るなんて言うくらいだから…

お前は何も知る必要はない
下に車を用意してあるもう屋敷へ戻ってもいいのだぞ

いいえ…
残りますわ…
だって私達の子供が
大変な目に遭っているのを
放ってはおけないでしょ
それに…
何より……
私はあなたの
妻ですから……
ふる
ふる…
……
そうか…
わかった

ありがとう
亞里亞(ありあ)

ザァァァァァァ
え…
ええ……

ふふ……
ん…
うふふ
あは…
あ……
あひ…

ん…
ふふ…
きれい…

あは…
ちう

……あ
ぷいっ
ガバッ
ぷいっ

でも…
これもちがった…
あは…
ばーぶ!!
！
ばーぶ。
お前…ひょっとして家から来てくれたのか……!?
ひょい

おいおい…ムチャしやがって……
フン
フン
んばー
あっ
ふぃー
…ああ わかってるよ
礼弥がおかしくなっているのは
ぱーぷー

礼弥にオレのこと思い出させさえすればあの廃墟の時みたいにきっとまた理性を元に戻せると思って来たのに……
ァアアア
結局……夜まで何もできないでいるんだ……

オレは今まで
どこか心の片隅に
礼弥が〝きっと本当は
まだオレのことを
憶えてくれている〟って
ずっと
信じてたんだ…

それがさ…
あの一言だけで
今まで信じてたものが
全部頭の中で
ぐちゃぐちゃに
なっちまって……
怖くて礼弥に
近付けなく
なるなんて……
情けねえ
よな……

降谷千紘

県立紫陽高校１年生。幼い頃からゾンビ好きという変わった少年。礼弥を守るため色々奔走中。礼弥に噛まれ、ハーフゾンビになったことがある。

左王子蘭子

千紘の従姉妹で幼なじみ。学年は一つ上で散華女子の２年生。溌剌とした元気娘で、テニス部に所属している。愛称は「わんこ」。

散華礼弥

私立散華女子学園１年生。名家のお嬢様だが、父から逃れようとして転落死する。その後ゾンビっ娘として復活！脳の手術により、記憶を部分的に喪う。

オレ……
こんなに……

意気地なしだった
なんてさ……

……いや……そうだよ

オレなんて
昔っから
元々そういうヤツ
だったんだ

自分から
人に関わることが
苦手で……

周りに
引っぱられて

ようやく世間と
繋がっていただけ……

……そんなオレが
タッ
一人の女の子の運命を背負うことなんて……
できるわけ……なかったんだ……!!

あは――…
その…猫さん
とっても…
おいしそぉ
私の…
欲しいもの…
かも……
おい…
ふ…ふふ
たっ

ちょおだい
よオ――……
ねえ――……
礼弥…
お前…
ばーぶのことも
忘れちまったの
か……!?
ちょおだい――
オレ達の出会う
きっかけになった…
ばーぶの
ことまで……
もう……
んきぁ…

ねえええええ
ちょおおおおだあああああああい!!
そおおれえええ
違う…
ばーぶも違うんだ…!!
食べたって…何も変わらない……!!
ちょだい
ちょだい
お前が本当に食べたい物は……
もう…
もう見つからないんだ……っ!!!

ごめん…
ごめん
礼弥……
もう……
オレには……っ

ムーもご
もご
んっ…ん…
えっ
……
これが…
ゴク

今の礼弥なのか……
もう後戻りすることのできぬ……
運命だというのか……！

お…おっさん!?
な……っなんでここに……!?

ぶっは
ってぇ——
何すん……
先刻から動向を
見させてもらった

お前は礼弥に
忘れられたと
いうだけで
何もかも
自信を失って
しまうのか……？

自分のことを
知らない相手に
お前は
自身の想いを
伝えられないと
いうのか……!?
フルヤチヒロ……
失望したぞ
お前の…礼弥への
〝想い〟とは……
その程度だったと
いうことか……!!?

来宮・ダリン・アーシェント

ボイル教授を訪ねて南の島から来日したゾンビ研究の専門家。研究にあやしい情熱を燃やしている。こう見えて礼弥より年下。

18

ダリンの忠実なるペット。ゾンビ化&半機械化している。

降谷家の人々

とーちゃん

本名:降谷敏恩。紫両寺の住職。「いんじゃね?」と礼弥とダリンの居候を承諾。

じーちゃん

蘇世丸を造り出した張本人。名を苑五郎と言い、ZoMAてはボイル教授と呼ばれる。

ばーぶ

車にハネられて死んでしまったが、千紘と礼弥が作った薬で蘇生。

降谷萌路

中学1年生にして、降谷家の家事を切り盛りするしっかり者。般若心経を愛読。

STORY

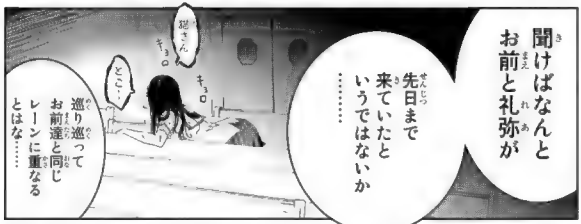
氷穴で氷漬けにされていたゾンビ・お時が語った真実。それは蘇世丸誕生の秘話、苑五郎を襲った悲劇の歴史だった。その驚くべき話が母・柚菜の命を奪った事故に及んだ時、千紘は母との"最期"の記憶を取り戻した。子供達との約束を守る為、ゾンビとなった母。その凄惨な末路にゾンビの宿命を理解した千紘。そして…。苑五郎と共に最期を迎えたお時と別れ、家に戻った千紘はそこで礼弥の急変を知る。人を襲うようになった礼弥を前に意を決した千紘は…。

ビビビ

お…

おっさん!!!
ちから
ペッ
ヒィッ
しっかりしろ!!!
ん…く
どうして……
その言葉を……
こ…混濁期以降の蘇者にとって……
食事を邪魔する者…は……
敵でしか……ない…か……
えっ

そう……だ
私……もZOMAへ行ったのだよ……
ほんの…数日前に…
……!!


聞けばなんとお前と礼弥が……
先日まで来ていたというではないか……
とこ…
キョロ
キョロ
巡って巡ってお前達と同じレーンに重なるとはな……

この1か月間……私は世界中を飛び回り最先端医療から軍事機関 製薬会社……
果てはマフィアから怪しいオカルト組織まで回り……辿り着いたのがZOMA……の……
え…ちょっと待ってくれ……

数日前に行ったってことは……
ひょっとしてあんた……
……ああ

君の……
祖父に会ったよ
そして…彼から
全てを語って
もらった……
蘇世丸……
蘇者……
その末路を――

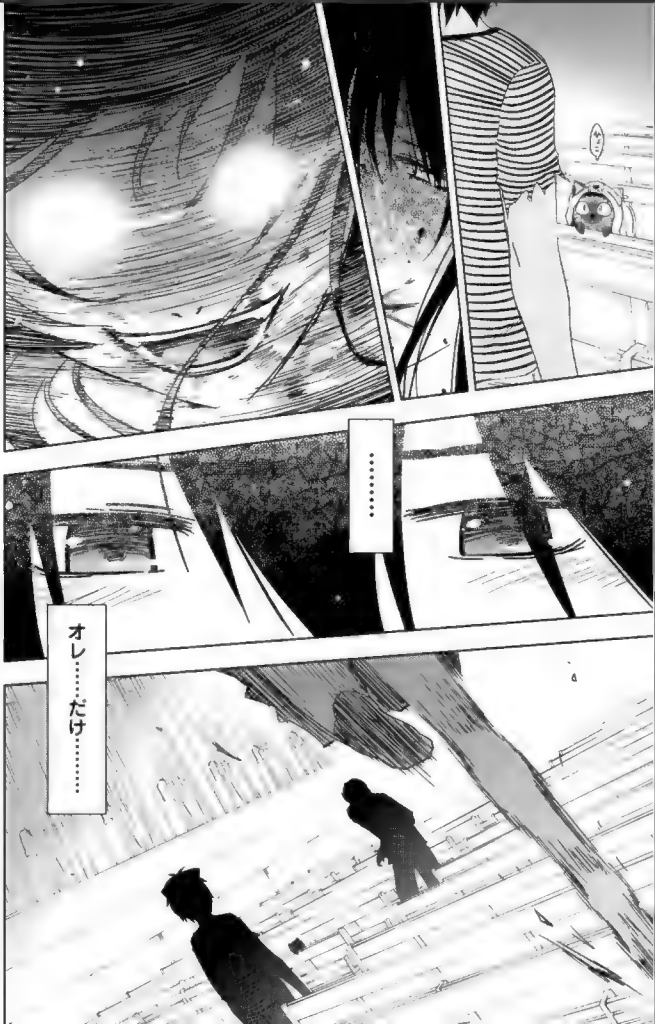
私は……
彼に騙されたのだ……
この先……覚悟しなければ
……ならない……っ
ぐ……
その話は
後で聞かせてくれ！
今は止血と解毒を
しないと……!!
むぐ…
すぐ戻るから
そのまま安静に
してるてくれ!!
ぬ…
ダッ

ぬうううううっ
あはー
構うな…
一人で歩ける……
お…いおいバケモノかよ……

……
私が帰国したのは……
全てを諦めたからではない……

それでも……
礼弥の〝想い〟を……
〝願い〟を全うして
あげれば……
あるいは……
〝奇跡〟が起きるのでは
ないかと信じて
いるからだ……!!

そして……今
それができるのは
お前なのだ……
お前だけ……なのだ……


ねこ
……
オレ……だけ……

自分のことを
知らない相手に
お前は

自身の想いを
伝えられないと
いうのか……!?

MITSURU HATTORI presents

CONTENTS

第53話 看取るの…だから… 5
THE DYING FATE
第54話 また…今から… 37
RISE OF THE ZOMBIES
第55話 さんか…れあ… 73
SANKA
最終話 朽ち…果てる…まで…… 109
DEATH BECOMES HER
特別番外編 しろまびと 149
SANKAREA 11

SANKAREA 11

発行：株式会社 講談社

© MITSURU HATTORI 2014

マガジンKC | KCM5231 | 2014年制作 | http://www.studio-hami.net/ | Printed in Japan | 複製不能

★この物語はフィクションです。実在の人物、団体、出来事などとは一切関係ありません。
<掲載 別冊少年マガジン2014年7月号～10月号、12月号>

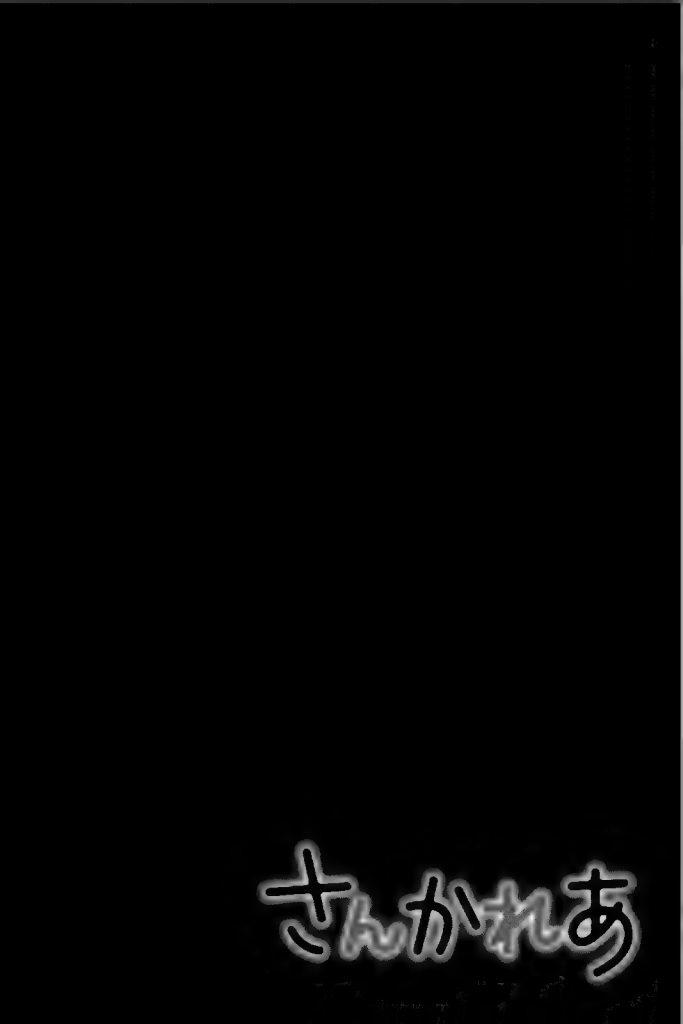
vol.11 SANKA HAMI COMICS

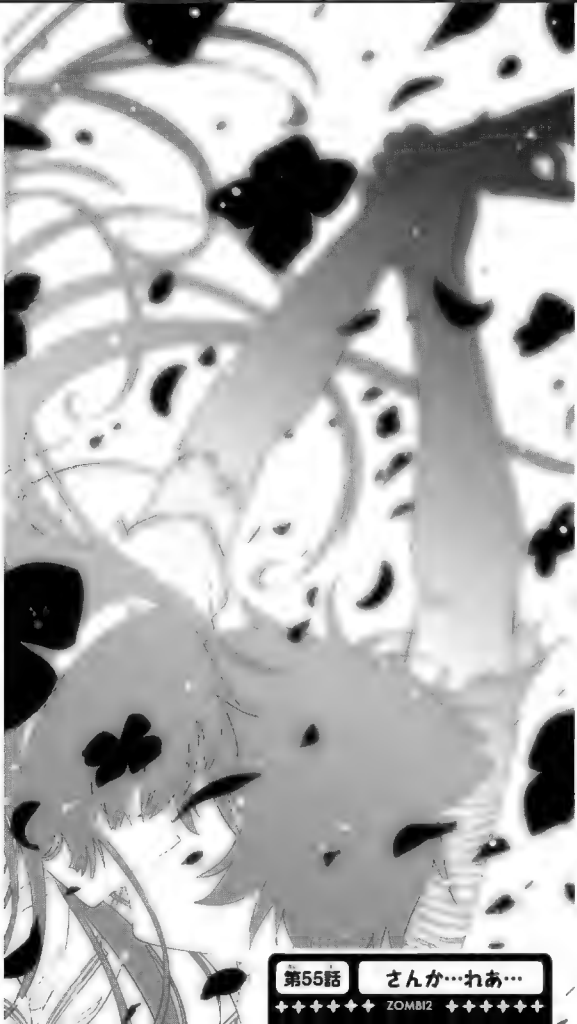
そうだよ…
そもそも
オレ達は
全く別々の
人生を歩んで
きた中で
お互いを
まだ何も
知らない
状態から
全て
始まったんだ…

突然
出会ったんだ……
……だったら

また
今から

始めればいいんだ


さんかれあ



第55話 さんか…れあ…

ZOMBI2

ドクン…
ドクン
ドクン
ドクン

あ……れ……？

知って……いる？
知ら……ない？
ちが……う？
ちがわ……ない？

……あ

ぶちっ

痛ってぇ……

あんな
受け止め方したら
歯がカチ
合っちまうわな……
おーいてて……
ぱっ

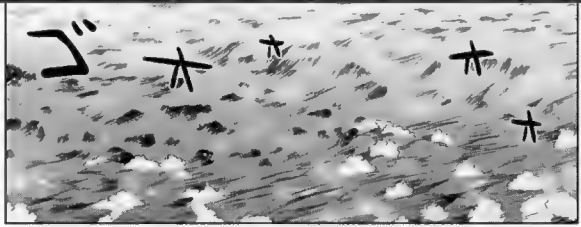
えと…
あなたは…

え…
ああ…別に
知らないなら
それでいいし…

あ――…もう
ほんっと
今日は
サイテーだわ…
朝まで店で
飲み過ぎちゃった
から
仕方なく そのまま
学校早めに来て
酔いを醒ましてたら…
まったく……
第53話 看取るの…だから…
THE CREEPING FLESH

…知らない
つーか…その……
いきなり変なコトしちまって……ワリィ
急に飛んで来たからその勢いで……
なんか…そのまま…
え…あ
ああ…
いえ…
すみませんこちらこそ
あ……っひょっとして初キス……だった…とか!?
キャ
パ
……いえ
多分……初めてじゃないです
ほーん…
すと…
あ…そういやアンタの名前は?

名前……
私の……？
えっと…
あれ……？
おいおい…
自分の名前
わかんねーの？
いや…さっきまでは
憶えて……あれ？
ばぶ？
だり？
めう？
あ——
雨止んだな
え…
はぁ
じゃあさ すぐ思い
出せないんだったら
ちょっと外行かね？
こんな所に
閉じ籠もって
いるよりも
外の空気吸った方が
名前 思い出すかも
しれないだろ？
……


ゴ

うわ…

霧が凄いな…
あの!…

ん？
あ…
いえ…
なんだよ…
逆に気になるじゃん
いや…
その……
以前も
誰かと一緒に
こんな風に川沿いを
歩いたなぁ……って
……っ
……なぁ
アンタってさ
……
ひょっと
して……

ビッチ系…？
いや…なんか
きっかから色んなヤツと
キスしたり一緒に
歩いたりとか言ってるし
……はっ!?
それに
そのカッコ
だって
ち…違いますっ
こっ これはですね…
その…着替えている時に
勝手にボタンが全部
取れてしまったんです……っ

そ…それに私 一言も
色んな人となんて
言ってませんし！
ていうか…まだ正式な
お付き合いは一度も
ないっていうか……
えー
なのにキスは
経験済み……
もっ それは
流れでそうなっ
れでもっ！
確かに……
あ…
あなたこそ
ちっ
誰かと
付き合ったこと
あるんですかっ…？
ん―…
正式…には
ねぇかな……
ホラ…あなたこそ
人に言える立場
ですか…っ！

アンサー
もらって
ねーからな
えっ
告白した
オレの言葉に対しての
"返答"を
まだ その娘から
もらってねーから…

タタン
タタン
タタン
タタン
あ
始発電車…
じゃあ…そろそろ戻ろっか
……
はい…
だめっ
はっ。

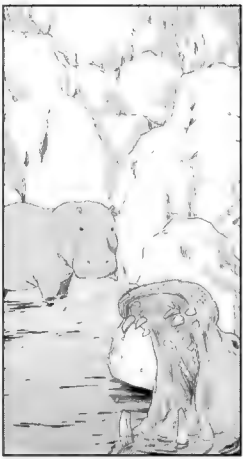
後悔しないように
生きなきゃ!!
……っかく
え?

折角…
そう……
電車が動き出したのなら……
もう少し…だけ遠出してみませんか……
たとえば――
タタン
タタン
タタン
タタ

こんな面倒なこと
しなくたって
ア
本当なら突き出すトコ
突き出しちゃえばいいのよ
ア
あんな
腐りかけの
化け物…ッ

あのボウヤ一人で
講堂に入って
いったケド
さっさと礼弥を
どこか連れ出すなり
処分するなり
して欲しいわっ！

ア
チヒロ！
ア
よかった…
来てくれたのね!!



私…一度
動物園へ行って
みたかったんです
え…行ったこと
なかったの!?
いや…学校行事で
一度だけ
ありますけどぉ…
そのぉ…
ショワ
ショワ
ショワ
ショワ
ショワ

プライベートでは……一度も……
ぎゅ
……
ふーん
ぎゅ
ぎゅ
ぎゅ
ちゅーーー
……
ちゅ
……あの実はもう一つ行きたい所があるんですけど……
ショワ
ショワ
ショワ
ショワ
あ……それってひょっとして……

ドーン

は～～～っ
ホンッと
素敵でした!!
カサ
カサカサ
もう すっかり
夕方ですね
ちょん
ちょん
ん?
ビル
わあっ
何が
ですか……?
おいおい…
…で どうなの

名前だよ
アンタの
な・ま・え
まだ 思い出せ
ないのかい？

……
うーん…
まだ…
かな……

もう少し…
散歩していたら
思い出す
かも……なぁ…
なんて……
……

…あの
オレさ
あっ
時間が無いのなら
無理には……
いや…

キミの名は
オレ……本当は
名前……知ってるんだ

さんかれあ

トクン
ずっと
アンサーを
待っていた人…

トクン
トクン
……あ……
トクン
トクン
トクン
トクン
トクン
トクン
トクン
……そう……だ……
トクン
トクン
トクン
トクン
トクン

さっきまで
礼弥ちゃん
校内を走り回ってて…
その後講堂に
入っていったから
不完全だけど
私達で一応入り口だけ
抑えたんだけど…

ねぇ 萌路ちゃんも
おじさんも大丈夫!?
一体…
礼弥ちゃんに何が
起こっちゃったの!?
ねぇ!
ちょっと
チヒロ
聞いてるの!?
わんこ…
もし……